

29年1月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 1月1日～ 29年1月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は14社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/1月	29/2月	29/3月
入荷動向	スギ	5.0	0.0	0.0
	ヒノキ	0.0	△ 10.0	10.0
	カラマツ	△ 50.0	0.0	50.0
	トドマツ	0.0	0.0	25.0
消費動向	スギ	5.0	5.0	10.0
	ヒノキ	0.0	△ 10.0	10.0
	カラマツ	50.0	50.0	50.0
	トドマツ	0.0	25.0	50.0
在庫動向	スギ	11.1	5.6	11.1
	ヒノキ	0.0	△ 10.0	0.0
	カラマツ	△ 50.0	0.0	50.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 50.0	0.0

・スギ及びヒノキの製材原木の入荷は、総じて横ばい。カラマツは1月の減少が、2月は横ばい、3月は増加。トドマツは1月、2月の横ばいが、3月はやや増加。

・スギ製材原木の消費は3ヵ月連続してやや増加、ヒノキは1月の横ばいが、2月はやや減少、3月はやや増加。カラマツ及びトドマツは総じて増加傾向。

・スギ製材原木の在庫は3ヵ月連続して増加。ヒノキは横ばいなし減少。カラマツは1月の減少が、2月は横ばい、3月は増加。トドマツは1月、2月の減少から3月は横ばい。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	29/1月	29/2月	29/3月
スギ	38.9	22.2	11.1
ヒノキ	25.0	12.5	12.5
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

スギ及びヒノキの製材原木の価格は強含みで推移。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・風倒被害木の処理の遅れ及びTPP間伐施業の遅れにより入荷は少ない。住宅着工が順調なことで、例年は冬期に減少するトドマツの使用量が増加。冬期造材が終了する3月末に、在庫が2ヵ月以上に出来るか不安(北海道)。

・民有林からの出材を期待。フル生産するも冬期凍結や休日が多いため月生産量は減少、3,500m³/月(1-2月)5,000m³/月(3月-) (北海道)。

・立木を2ヶ所で手掛けているので、潤沢(東北)。

・生産量は変わらないので、入荷量も一定。冬場の丸太は傷みにくいので、価格さえ合えば在庫を増加(近畿)。

・入荷少ない。入荷に応じて消費、製品単価が上がらないので無理な仕入れはしない(中国)。

・スギは季節的要因もあり、市場へのお入荷自体が少なくなっている。ヒノキは雪の影響がこれから出てくる。消費は入荷の状況に左右される状態(手持在庫は余りないので)(中国)。

・今の所、悪天候もなく入荷は順調、若干人出不足の影響がどこまで出るか不安(九州)。

・年末年始、異常高値に伴い出材量も増加したが、今後は安定方向の見込み(九州)。

(原木価格)

- ・ 価格安定(北海道)。
- ・ 全国的に原木不足(東北)。
- ・ ヒノキの引合いが多少目立ってきている(近畿)。
- ・ ヒノキ丸太は頭打ち、スギはないもの高(中国)。
- ・ 相変わらず高値が続いており、しばらくはキープするのでは。これからの世界動向で原木輸出を主とするところは岐路に立つ可能性あり(九州)。
- ・ 未だKD材の不足感は続いている。東日本を中心とする大雪等の影響で、住宅着工の遅れが出てくるのでは。それによる荷動きの一服感が発生する恐れあり(九州)。

29年1月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/1月	29/2月	29/3月
生産動向	スギ	△ 5.0	10.0	15.0
	ヒノキ	0.0	0.0	20.0
	カラマツ	50.0	50.0	50.0
	トドマツ	0.0	25.0	50.0
出荷動向	スギ	25.0	10.0	0.0
	ヒノキ	20.0	10.0	△ 10.0
	カラマツ	50.0	50.0	50.0
	トドマツ	25.0	25.0	50.0
在庫動向	スギ	△ 16.7	△ 16.7	△ 5.6
	ヒノキ	△ 40.0	△ 20.0	0.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 75.0	△ 50.0	△ 50.0

・スギ製材品の生産は1月の減少から2月、3月は増加。ヒノキは1月、2月の横ばいが3月は増加。カラマツ及びトドマツは総じて増加。

スギ製材品の出荷は1月、2月の増加が3月は横ばい。ヒノキは1月、2月の増加が3月は減少。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して大きく増加。

・スギ及びヒノキの製材品の在庫は、総じて減少。カラマツ及びトドマツは、3ヵ月連続して大きく減少。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		29/1月	29/2月	29/3月
スギ	柱角 KD10.5×3	50.0	15.0	0.0
	柱角 KD12×3	40.0	10.0	△ 5.0
	通し柱 12×6	14.3	7.1	7.1
	桁角	7.1	7.1	7.1
	母屋角	12.5	6.3	0.0
	タルキ	28.6	14.3	0.0
	間柱	35.0	20.0	0.0
	ヌキ	7.1	8.3	0.0
	平割	14.3	7.1	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	12.5
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	40.0	20.0
柱角 KD12×3		40.0	20.0	0.0
土台角 10.5×4		40.0	20.0	0.0
土台角 12×4		30.0	20.0	0.0
通し柱 12×6		25.0	12.5	0.0
ラミナ		0.0	0.0	△ 25.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ製材品の出荷価格は総じて強含みで推移。

・ヒノキ製材品の出荷価格は総じて1月、2月の強含みが3月は横ばい。

・カラマツ梱包仕組み板及びラミナの出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。

・トドマツサンギは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・冬場に入り、稼働日数と凍結で生産減。在庫は無く出荷に追われる状況(北海道)。
- ・稼働日数は少ないが、ヒノキ製材は減らさず。昨年よりも注文(同月比)は多い。昨年末の受注残も少しあり忙しさは変わらず。昨年夏頃より在庫調整を行い、現状は適正水準に近い状態維持する(近畿)。
- ・丸太(特に柱口に関しては)の入荷に合わせて製材を調整、フルに稼働出来ない状態が続いている。出荷は11月～12月の勢いはなくなって来た模様。丸太入荷が増えれば製材品の在庫を増やしたい(品物によっては在庫ゼロの状態(中国))。
- ・原木入荷に応じた生産、1月いっぱい荷動きが止まるのでないか。来月以降は在庫が増えてきそう(中国)。
- ・11月、12月同様に生産は横ばい。出荷量も多く、在庫として残るものはない(九州)。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツサンギは一部で値上げ模様と聞くが、需給バランスとれていれば横ばい(北海道)。
- ・スギ柱角 (KD)10.5cmは55,000円/m³(東北)。
- ・品不足で小幅ながら反発、価格を上げて行きたいが、納期を待たせていることもあり、お願いしがたい状況(近畿)。
- ・代替需要のあるスギ柱角は、荷動きが止まれば値下げ圧力が増しそう。スギ通柱は単価が安定。スギと同様ヒノキ土台角の価格は今月まで維持されているが、来月以降は下がるかも(中国)。
- ・スギ、ヒノキは品不足のためやっと少しずつ値上げが通るようになってきた(スギ柱、特に10.5cm角、ヒノキは3m柱限定)(中国)。
- ・スギ柱角は約2ヵ月先まで注文が来ている(九州)。

29年1月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/1月	29/2月	29/3月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	100.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 50.0	50.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

- ・米マツ丸太の仕入れは1月、2月の横ばいが、3月は大きく増加。ラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。
- ・米マツ丸太の消費は1月の減少が、2月、3月は大きく増加。ラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。
- ・米マツ丸太の在庫は1月、2月の横ばいが、3月は増加。ラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/1月	29/2月	29/3月
米マツ丸太	100.0	50.0	0.0
NZラジアータ丸太	50.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

- ・米マツ丸太の購入価格は1月、2月の強含みから3月は横ばい。
- ・ラジアータ丸太は強含みで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・ラジアータ丸太の入荷、消費及び在庫は、現状維持（中国）。

(原木価格動向)

- ・ラジアータ丸太は、円安のため価格が上がる（中国）。

29年1月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	29/1月	29/2月	29/3月
生産			
米マツ製材品	△ 50.0	50.0	50.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷			
米マツ製材品	△ 100.0	0.0	100.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫			
米マツ製材品	0.0	0.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の仕入れは1月の減少が、2月、3月は大きく増加。ラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ製材品の消費は1月の減少が、2月は横ばい、3月は大きく増加。ラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ及びラジアータ製材品の在庫は3ヵ月連続して横ばい。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/1月	29/2月	29/3月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	50.0	50.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	50.0	50.0
NZ梱包材(割角)	0.0	50.0	50.0
NZ土木用材	0.0	50.0	50.0
その他	—	—	—

・米マツ平角及び小割の出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。正角は強含みで推移。

・NZ梱包材(割板、割角)及び土木用材は1月の横ばいが、2月、3月は強含み。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・ラジアータ製材品の入荷、消費及び在庫は、現状維持（中国）。

(製材品出荷価格動向)

- ・ラジアータ製材品の単価は、2月より値上げする。2,000～3,000円/m³（中国）。